

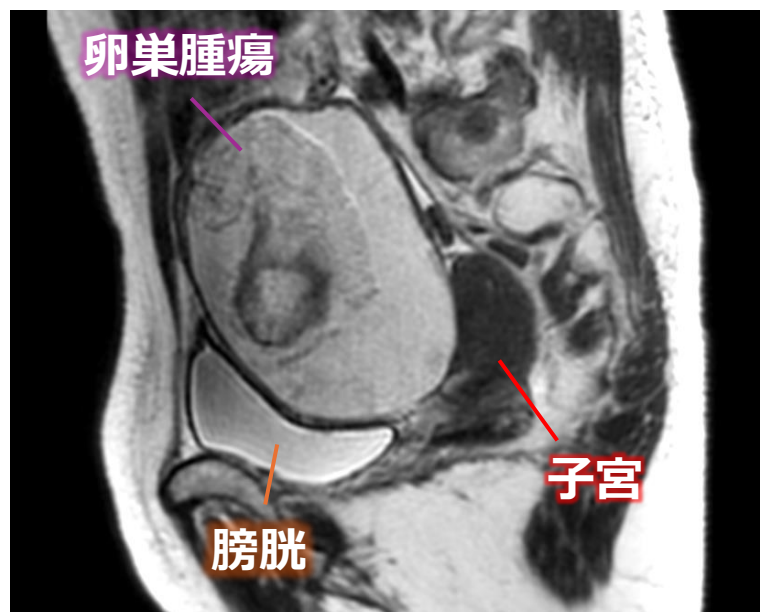
奇形腫発生のがん（きけいしゅはっせいのがん）

奇形腫発生のがんについて

奇形腫は、卵巣に発生する腫瘍で、未熟奇形腫と成熟奇形腫に分類されます。未熟奇形腫は、悪性腫瘍ですが、希少がんには該当しないため、ここでの説明は省略します。成熟奇形腫は、頻度の高い良性腫瘍として知られていますが、ごく稀にがんが発生することがあります。様々な種類のがんが発生する可能性があります。ほとんどは扁平上皮がん（へんぺいじょうひがん）というものが発生します。この奇形腫発生のがんの特徴は不明な点が多く、予後不良とされています。

奇形腫発生のがんの症例

図1 奇形腫発生の扁平上皮がんの MRI 画像



59歳女性、腰痛を契機に卵巣腫瘍を指摘されました。画像上、子宮の前面に腫大した卵巣を認めており、手術の結果、奇形腫発生のがんと診断されました。

症状について

卵巣腫瘍は、進行するまで症状が出にくいという特徴があります。進行すると卵巣腫瘍の増大に伴う腹部膨満感などが生じます。

診断について

超音波検査やMRI検査などで、卵巣腫瘍が診断されます。卵巣腫瘍の中でも、成熟奇形腫が疑われ、かつ急速に増大している場合などに奇形腫発生のがんが疑われます。また、血液検査で腫瘍マーカーが上昇することもあります。ただし、確定診断をするためには、手術で卵巣腫瘍を摘出する必要があります。

治療について

診断と治療を兼ねて開腹手術を行い、卵巣腫瘍を摘出します。完全切除された場合は、術後治療は不要になります。残存病変がある場合や再発時は、抗がん剤治療を行いますが、どの抗がん剤の効果が高いかはわかっていません。

執筆者

- 氏名： 吉田 康将（よしだ こうすけ）
- 所属医療機関： 名古屋大学医学部附属病院
- 診療科： 産婦人科